

平成27年度 宮崎県立農業大学校 学校経営方針及び学校評価表 (評価結果)

教育目標	方針	平成27年度
<p>【自律】経営能力を身につけ、国際化に対応しうる自律心の強い社会人を養成する。</p> <p>【創造】21世紀の農業を拓く、創造力豊かな社会人を養成する。</p> <p>【協調】学校生活を通じ、協調性に富む社会人を養成する。</p>	<p>【就農に自信と誇りの持てる学校】</p> <p>(1) たくましい実践力を備えた即戦力となる農業者の育成</p> <p>(2) 農業大学校で学んだ者が農業に果敢に挑戦できる環境の創造</p>	<p>(1) 様々な学校PRにより入学定員(65名)の確保</p> <p>(2) 特色ある取組により実践力(技術力)の育成</p> <p>(3) きめ細かな進路指導により学生の進路実現</p>

<<設置根拠>> (1) 農業改良助長法第7条5項の規定に基づく「農業者研修教育施設」 (2) 学校教育法第124条の規定に基づく「専修学校」

評価項目		平成27年度目標	今年度の取組と成果	内部評価	外部評価
学校全体	入口対策 (新入生確保)	志願者数の確保	○就農に意欲のある入学者の確保 ○65名定員の確保 【取組】○高校訪問、学校説明会、ガイダンス等により積極的に学生募集を行った。 【成果】○来年度、63名が入学予定。(70名合格)	A	A
		学校PR	○積極的な情報の発信 【取組】○SNSを活用し、随時、情報を発信した。 【成果】○学生自身がマスコミ等の取材に対しても、自信を持って学校をPRした。	A	
	学校教育 (特色ある取組)	教育課程 (講義・実習)	○体系的な学習カリキュラムの編成 ○学科・コース・部門の検討・整備 【取組】○時代のニーズに対応した新たな教育内容を検討し、H29に向けカリキュラムを編成中。 【成果】○高校の意見等を参考にしながら、学科改編の方向性が定まった。	B	B
		担い手育成事業 (高大連携)	○高大連携事業の推進 【取組】○高鍋農業高校との連携会議や農大校で高校生の実験実習等を実施した。 ○県内の農業高校において、意見聴取やアンケート調査を実施した。 【成果】○次年度より学生募集やプロジェクト学習に連携して取り組む体制ができた。	B	
		自治会活動	○自治会活動を通して、学生の自主性と自立性を養う。 【取組】○学校行事の企画・運営や学校生活におけるルール作りなど、学生主導による主体的な自治会活動に取り組んだ。 ○小学生対象の食育活動を行った。 【成果】○学生の自主性、自立性や企画・運営能力が身に付いた。	A	
		寮生活	○寮役員による自治体制の構築 【取組】○役員を中心に寮生活のルール作りに取り組み、住みよい寮づくりに努めた。 【成果】○全学生へ浸透させるには、まだまだ時間が必要である。	B	
	出口対策 (進路達成)	進路実現	○学生の希望に応じた100%進路実現 【取組】○ハローワークによる定期的な面談を実施し、学生の進路実現をサポートした。 【成果】○ほぼ全員の進路が決定した。	A	A
		担い手の確保	○スムーズな就農支援体制の確立 ○就農率6割以上 【取組】○就農コーディネーターや普及センターと連携した就農支援を行った。 【成果】○就農率60% (即就農11名、法人就農21名)	A	

評価基準(達成度) A=ほぼ達成した(90~100%) B=8割程度の達成度(70~89%) C=6割程度の達成度(50~69%) D=5割以下しか達

評価項目		平成27年度目標	今年度の取組と成果	内部評価	外部評価	
各 学 科	アグリビジネス学科	学科学目標 (育てる学生像)	<p>○【土地利用型農業法人】、【集落営農法人】、【6次産業企業法人】経営を「目指す」または「担う」人材の育成</p>	<p>【取組】 ○農業生産法人での短期実習(5日間) ○関連企業等への校外学習 ○地域イベントでの販売実習による消費者との交流</p> <p>【成果】 ○就農4名、農業生産法人就農6名(2年生14名中) ○米穀流通や6次産業化に取り組んでいる企業等での体験学習の実施 (ミヤベイ直販 都農ワイナリー 経済連直販等) ○高鍋町灯籠まつり(10月)、川南町軽トラ市(H26:2回 → H27:3回)参加</p>	B	B
	プロジェクト学習	<p>○生産部門(大規模経営コース)と加工部門(グリーンライフコース)による農業生産法人「アグリビジネス学科」の体制整備および安定経営の確立</p>	<p>【取組】 ○形跡管理システムを導入し、作業の効率化及びコスト意識の向上 <<大規模経営コース>> ○水稲、小麦、原料かんしょ、露地野菜の各部門に2年生リーダーを配置し、指導職員と連動したほ場運営の実践 <<グリーンライフコース>> ○農大産の米粉、果樹・かんしょや各自で栽培したハーブやそばを活用した加工品の研究</p> <p>【成果】 ○作業舎内の整理整頓や習慣的な清掃など、学生の意識向上 ○露地野菜部門の生産性向上、販売金額の増加 ○ハーブを活用したベーグル製造のプロジェクト発表が学校代表となり、九州大会で発表</p>	B	B	
	特色ある取組	<p>○法人との連携による加工野菜等の機械化体系栽培の実践及び技術習得</p> <p>○校内6次産業化をはじめとするフードビジネスの理解促進</p>	<p>【取組】 ○冷凍加工用さといもの機械化体系実習 ○チャレンジファーム事業を活用した農業機械に関する研修の実施 ○小麦に続く、地域企業との連携品目拡大 ○自治会主体による農大市の企画・運営の支援 ○「鍋合戦」参戦による地域の活性化実践</p> <p>【成果】 ○高鍋農業高校、宮崎県経済連・ジェイエイフーズみやざきと連携した施肥同時マルチャー、植付け機による実習の実施 ○10/10 大型農業機械、2/19 ほ場内高低差解消技術、ほ場排水対策、3/1 パレイショ植付け等 多種の研修実施 ○新たな品目:米粉、もち米(町内企業との連携) ○自治会役員による企画・運営(職員は運営の支援) ○鍋合戦(11/15)「手作り肉団子のトマト鍋カレー風味 ~農大パンを添えて~」3位入賞</p>	A	A	

	評価項目	平成27年度目標	今年度の取組と成果	内部評価	外部評価	
各 学 科	園芸経営学科	<ul style="list-style-type: none"> ○施設野菜、花き、果樹の栽培管理技術の習得 ○施設園芸を基幹とした経営体の経営管理手法の習得 ○法人経営体に就農できる人材の育成 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農大にある品目(トマト、メロン、キク、温州ミカン)を題材に栽培に活かせるような工夫をしながら講義を実施した。 ○果樹技術員会、野菜・花き成績検討会に出席した。 ○ライフプラン作成による家計費の算出と家計費に応じた所得確保のための営農方式、計画を作成した。 ○地域販売所や事業所等で生産物を販売・出荷した。 ○法人、篤農家、総合農試での校外学習を実施した。 ○GAPの一環で形跡管理に取り組んだ。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講義内容を実習により、確認することができ理解が深まった。 ○経営管理と計画作成手法の習得のその重要性の認識が深まった。 ○高度な栽培技術や経営管理手法に触れることができ、将来像を描く学生も見られるようになった。 ○対面販売等することにより、自ら栽培した生産物の評価等を聞くことができ、プロジェクトへの取組の充実強化を図ることができた。 ○即就農1名、法人就農7名(2年生19名中) ○形跡管理に取り組むことにより、具体的な農場管理手法が学習でき、作業性の効率と安全管理等への取り組むことができた。 	B	B	
		プロジェクト学習	<ul style="list-style-type: none"> ○PDCAによる自ら考え、取り組む体制の充実 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトのまとめを早期から行い、実施状況をリアルタイムに把握するようにした。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今、何をしなければならないかを学生自身である程度把握でき、自ら考え、主体的に作業に取り組む姿勢が見られるようになった。 ○適期適作業が行えるようになり、栽培の失敗がなくなった。 	A	A
		特色ある取組	<ul style="list-style-type: none"> ○コース、学科を越えた幅広い品目の栽培技術習得 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アグリビジネス学科と連携し、さといも、大根、かぼちゃ等の栽培に取り組んだ。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設ものだけではなく、露地野菜栽培についても栽培方法の習得ができた。 	B	B

	評価項目		平成27年度目標	今年度の取組と成果	内部評価	外部評価
各 学 科	畜産経営学科	学科目標 (育てる学生像)	○大規模畜産経営を目指す、または担う人材や地域の畜産リーダーとなる人材の育成	【取組】 ○就農・就職後に活用できる資格取得の促進 ○先進大規模農家、畜産法人、畜産関連企業と連携した校内外学習の実施 【成果】 ○即就農4名、研修後就農2名、法人就農10名、農業関連産業2名、公務員3名(2年生21名中) ○家畜人工授精師21名、家畜受精卵移植師8名、2級削蹄師21名、家畜商15名ほか ○次世代型農場チャレンジファーム研修に参加 ○畜産法人7ヶ所、先進・大規模畜産農家7ヶ所、畜産関連企業2ヶ所、県共進会、枝肉共進会等の調査を実施	A	A
		プロジェクト学習	○宮崎県畜産新生プランの主要指標(生産性の向上、生産コストの低減付加価値や収益性の高い製品)に基づいた課題への取組	【取組】 ○未利用資源や地域の課題、農場生産成績や収支を基にしたテーマ設定 ○早期の課題設定と中間発表の実施 ○血液、乳汁検査成績データ活用と分析 【成果】 ○取組目標について1年次前期に課題設定、1年次(11月)及び2年次(6月)に中間経過発表を実施、全員が卒論として提出 ○「ビタミンC給与による乳汁中体細胞数の減少効果」が校内プロジェクト発表会最優秀賞課題として九州大会へ出場	B	B
		特色ある取組	○臨床技術や衛生理論を取り入れた学習	【取組】 ○臨床獣医師による外科手術等の指導 ○良質乳生産牧場の継続 ○農場HACCP認証取得への取組 【成果】 ○去勢や除角等の臨床技術を学生自ら実施 ○良質乳生産牧場の認定更新(12月) ○畜産協会主催の農場HACCP推進研修会(7月)に参加 → 本校へ計画導入 ○第2回校内形跡管理コンテストで肉用牛コース1位、乳肉複合コース3位を獲得 → 学生の意識向上	B	B

評価基準(達成度) A=ほぼ達成した(90~100%) B=8割程度の達成度(70~89%) C=6割程度の達成度(50~69%) D=5割以下しか達

3月)

重点取組

5名)の確保に努めます。
J・経営力)を備えた農業経営者を
100%進路実現を図ります。

学校」

主な意見
○入学予定者が大幅に増えてよかった。
○新聞やテレビで活動が紹介されると学生は自信を持つ。今後も積極的にPRして欲しい。
○学科改編は魅力的なカリキュラムである。新たな学習内容について、早期に高校で説明して欲しい。
○連携した生徒募集に取り組み、学生を農大校に送りたい。 ○高大、地域の農家や企業等がコンソーシアムを組んで取り組むプロジェクト活動を推進していきたい。
○就農率60%だが、入学時の就農希望状況はどうか。

達成できなかった(50%以下)

主な意見

○大規模経営コースやグリーンライフコースのカリキュラムは、新設される専攻に引き継がれるのか。

○『模擬会社』を設置して、実際にシミュレーションをさせながら、経営を教えていくことはたいへんよい取組である。ぜひ、決算まで体験させて欲しい。

達成できなかった(50%以下)

主な意見
<p>○ライフプランに基づく営農計画の作成は大切な視点である。</p> <p>○GAPの取組について、農業高校にもノウハウを教えて欲しい。</p>
<p>○プロジェクト学習の中で、タブレット等の先進機器をうまく活用していただいている。</p>

達成できなかった(50%以下)

主な意見
○プレゼン能力の向上の取組成果が上がってよかった。
○HACCPの取組について、農業高校にもノウハウを教えて欲しい。

達成できなかった(50%以下)

